

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	3070105295
法人名	有限会社きのしたメディカルサービス
事業所名	グループホームかがやき
所在地 (電話番号)	和歌山市禰宜920-1 (電 話) 073-465-3333
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成19年 7月 2日

【情報提供票より】(19年6月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤3人, 常勤換算8.4人	

(2)建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	木造2階建て造り	
	2 階建て	1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000、53,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃6か月分 円) 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数		17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1		3 名		要介護2	3 名	
要介護3		4 名		要介護4	7 名	
要介護5		0 名		要支援2	0 名	
年齢	平均	84 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 泰伸会 きのしたクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣接するクリニックと医療連携を行っており、看護師の密接な訪問を受け、利用者の健康管理や医療面において充実している。 利用者一人ひとりのペースを尊重し、ゆとりをもって楽しい生活ができるよう支援している。 家族の意向を運営推進会議や毎月家族に送る「お便り」に家族の意見欄を設けたりして把握し、運営に役立てている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設後今回がはじめての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	各ユニットの管理者が自己評価して記入しており、項目によって職員に意見を聞いたり、また職員が目を通したりしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	メンバーのうち家族からは、「してほしいこと」「してほしくないこと」など生の声を聞き、それを運営に役立てている。また老人会のメンバーからは地域のお年寄りの好みを聞き、また事業所の意向を伝えてもらい地域との繋がりとなっている。議題では、事業所で行う各種行事の説明と参加を呼びかけ、地域の人々との交流が進むよう努力している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	月に一度利用者の状況を記載し家族に送る「お便り」に、家族の意見欄を設けたり、運営推進会議の席上家族のメンバーから意見を聞いたり、また訪問時に家族の希望を聞き、それを運営に役立てている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元老人会の人々などを招いて、お楽しみ会や夏祭などを開催したり、また近くの幼稚園児との交流会を定期的になぎやかに行ったりして、地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「ゆとりある心にゆとりある生活、みんな笑顔で過ごせる場へ」という職員の意見で独自の理念をつくりあげている。	○	事業所に地域との交流が重視されるようになったので、地域密着型サービスとしての役割を、これまでの理念に付加することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所の入口等に掲示し、管理者、職員が共有し日々理念の実現に努めている。	○	職員は今後とも利用者に笑顔で接し、利用者共々明るい生活の場をつくって行かれるよう希望する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の老人会等の人々を招き、お楽しみ会や夏祭、敬老会等の行事を開催している。また近くの幼稚園との交流会を定期的に行い、園児が訪問し、歌・踊りなどにぎやかに交流している。自治会の行う溝掃除にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後、評価は今回が初めてである。	○	職員に自己評価を含め評価を実施する意義の理解を促し、具体的な改善に活かされるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族から希望や望まないことを聞いたり、老人会の代表者から地域のお年寄りの好みなどを聞き、また事業所の意向を会員の方々に伝えてくれる。これら会議の内容をサービスの向上の参考にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修会で市の担当者に直接質問や要望をしたり、運営上疑問が生じたときは随時電話で相談したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族には、月に一度「お便り」を送り、健康状態や日々の暮らしぶりを伝えている。体調に変化等がある場合はその都度電話連絡を行っている。なお利用者からの預かり金管理状況も月に一度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に送る「お便り」には家族の意見を書いてもらう欄を設けている。また入居に関する費用の請求書を送るとき、職員の態度や設備等についての管理者宛の意見書を同封する等して、家族からの要望や不満の声を聞き、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務条件に配慮して離職を少なくするよう努めており、開設当初に比べ最近では離職は殆んどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や仕事への適性、本人のやる気や希望等に応じ、勤務の事情も勘案して外部の研修会へ参加している。また毎月内部研修を行っている。なお職員は毎日業務の実施状況について施設長にレポートを提出し、働きながらのトレーニングの一助としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会には積極的に参加し交流している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が場の雰囲気に馴染めるよう、事業所に来訪し体験してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員・利用者は、介護するほう、されるほうの立場でなく、一緒に生活したり、共に家事などを行う関係をつくるように努めている。またお年寄りの生活の知恵を聞いて参考にする場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時に本人の意向を確認しており、また利用者の言葉や行動などから、希望や意向を汲み取るよう努力している。	○	今後も思いや意向を聞くのが困難な場合は、家族や関係者からの情報を得るなどしてケアに役立てられるよう希望する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメント、モニタリング、サービス担当者の会議等、本人をよく知る職員の気付きや意見、家族の希望等を取り入れ本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を期間に応じて見直し、また本人の心身の状況に変化が生じたときなどは随時見直しを行っている。	○	今後も職員が日々利用者に接する中で、利用者の心身の変化等により計画の見直しの必要が生じたときは、職員の気付きや意見交換により適切に対応してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するクリニックと医療連携体制をとっており、看護師の訪問を受ける等いつでも連絡可能である。利用者を健康・医療面で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接のクリニックや、必要に応じて市内の医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた方針を、本人や、家族や主治医の間で話し合っている。病気の場合は主治医と密接な連携をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを傷つけるような言動がないよう、また秘密保持など利用者のプライバシーを保護するよう努めている。	○	今後も、すべての職員がプライバシーの保護を徹底できるよう研修等の開催を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が日々の業務を優先させずに、起床、入浴、食事、就寝時間など利用者一人ひとりのペースを尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、食器拭き等職員が声をかけて協力してもらっている。職員も一緒に味わいながら楽しく食べられるよう支援している。また利用者の食後の感想を記録している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に毎朝入浴の希望を聞いて対応をしている。また利用者が安心して入浴できるように配慮している。	○	今後も入浴時間や入浴の仕方など利用者の希望に沿って、楽しく入浴できるよう配慮されるよう希望する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は趣味や持っている能力等を活かし、絵を描いたり、新聞を読んで楽しんだり、また家事手伝いの役割等をしており、職員はそれらを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海辺に行ったり、桃の花見に行ったりして利用者に喜ばれているが、普段はその日の利用者の希望に沿って外出を支援する機会は多くない。	○	外出は職員の業務の都合や、また外出を希望しない利用者もあると思うが、短時間でも外出は季節やその時々風の物を肌で感じ気分を転換したり、地域の人々と会う機会でもあるので、希望する場合は出来るだけ沿えるよう検討されるよう期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階の玄関には、朝の6時から夜7時30分までは鍵を掛けていない。居室は利用者が希望する場合にだけ施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度、隣接するデイサービスやクリニックからも参加し、避難など防災の共同訓練を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回把握しており、食事以外にも水分の補給を午前10時と午後3時の2回行っている。また利用者本人の希望により居室に夜間の水分を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同室には利用者に生活感や季節を感じてもらえるよう、壁掛けやアジサイの絵などを飾っている。利用者と職員が一緒につくったものが多い。部屋に日差しが強いときはカーテンにより利用者に直接当たらないよう調整している。またテレビの音量も適当と感じられた。2階からは山々や田園の風景を見渡せ、季節を目で感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好みのものを置いたり、人によっては仏壇や家族の写真を飾ったりして、居心地よく過ごせる場所になっている。		